

創 立 昭和32年4月19日
 会 長 菅 生 康 清
 会長エレクト 高 橋 靖
 副 会 長 長 谷 川 博 章
 幹 事 下 辻 眞 人
 広報会報記録 中 野 利 昭



2018-19 年度 地区スローガン
ロータリーを学び、実践し、発信しよう； Enjoy Rotary

事務局（例会場） 例会日
 榎原市久米町 652-2 毎週 金曜日
 DAIWA ROYAL HOTEL THE KASHIHARA 4F 12時30分～13時30分
 TEL/0744-28-2801（直通）
 FAX/0744-28-2802
 E-mail/krc@jeans.ocn.ne.jp
 TEL/0744-28-6636（ホテル）

Vol. 62 No. 29 (2018-19)
 2019(平成31)年3月1日発行

3月は、「水と衛生月間」(Water and Sanitation Month)です。

第 3012 回例会報告書

2019 (平成 31) 年 2 月 15 日

司会 副 SAA・辻田真海会員
 R.song 我ら日本のロータリアン
 ソング・リーダー 吉川弘晃会員
 ピアノ奏者 京田留奈さん
 情熱大陸、366 日

ゲ ス ト

卓話講師：巧匠堂 代表・文化財保存学 博士
 吉水快聞氏
 講師随行：鈴木冬覚氏、畑 景子氏

ビ ジ タ ー

池木啓仁君 (大和高田 RC)

出 席 報 告

正会員 46 名
 (2/15) 出席者 33 名 出席率 82.50%
 (2/1 補正) " 36 名 " 83.72%

ニ コ ニ コ 箱

- ◎真海さん、毎年チョコレートありがとうございます。
 ……………辻田真海会員
- ◎卓話担当です。巧匠堂 代表、文化財保存学 博士
 の吉水快聞様にお願ひしました。ご静聴の程、よろ
 しくお願ひ申し上げます。……………井上輝好会員
- ◎真海さん、ありがとうございます。
 ……………松井大典会員

会 長 挨 拶

- まず最初に、真海さん、バレンタインということで
 毎年美味しいチョコレートをおありがとうございます。
 我が家でも妻や娘がいろいろ作っているが私の方
 には回ってこず、逆に娘たちがもらってきたチョコ
 レートを少し頂いたりしており、他に頂くチョコレ

ートと言えば飲み屋の硬いチョコレートぐらいで、
 最近ではあまりバレンタインが楽しくないと感じる。
 ○2月11日(月・祝) 建国記念日に榎原神宮の紀元祭
 に出席した。寒い日ではあったが、多くの方とともに
 1時間余りの式典に参列させて頂いた。中谷会員
 や尾田会員、元会員の喜多さんもおられ、榎原神宮
 は地元根付いた素晴らしい神社だと改めて感じた。

幹 事 報 告

- △ロータリー日本財団より、マルチプル・ポール・ハ
 リスフェロー 認証ピンの贈呈
 ・鍵岡正隆会員・里田 好会員・辻田真海会員
 ・羽根史朗会員・堀部光志会員





△米山記念奨学会より、当クラブが「第63回米山功労クラブ」に表彰され、感謝状が届いているのでご報告申し上げます。



△次週は家族例会のため、日時・場所が変更となる。
 日時：2月23日（土）12:00 開会
 場所：オーベルジュ・ド ふれざんす桜井
 2月22日（金）は例会はなしとなるので、お間違えの無いようよろしくお願いいたします。
 △例会変更ほか（詳細は掲示板にて。）

- ・大和高田 RC
 3月19日（火）・4月30日（火）休会
- ・やまとまほろば RC
 ①3月7日（木）休会 ※ビジター受付なし
 ②3月21日（木・祝）檀原 RC と合同の為、変更
 →3月22日（金）18:00～於：THE KASHIHARA
 ※ビジター受付なし。
 ③3月28日（木）休会
 ※ビジター受付は当日 12:00～12:30 まで、大和信用金庫別館1階にて。
- ・奈良 RC
 3月21日（木・祝）休会 ※ビジター受付なし。

- ・奈良大宮 RC
 ①4月16日（火）家族親睦例会の為、変更
 →4月14日（日）於：宝塚ホテル
 ②4月30日（火）休会
 ※両日ともビジター受付なし。

委員会報告

○ORA・IA委員会：中谷昌紀委員長
 ・檀原 RAC 国際奉仕活動について
 日頃よりローターアクト活動に多大なご理解を頂き、感謝申し上げます。先日、檀原 RAC 的場会長や千装国際奉仕委員長より、発展途上国への支援をする活動へのご協力を皆様をお願いさせて頂いたところ、たくさんの物資を頂いた。皆様のご好意により、たくさんの物資が集まり、当初計画していたよりも梱包代、郵送代が予算をオーバーしてしまったため、少し援助を頂ければ有難い。BOX を各テーブルに回らせて頂くので、ご協力の程よろしくお願ひしたい。

○親睦活動委員会：尾上隆志委員
 ・家族例会について
 日時：2月23日（土）12:00 開会
 場所：オーベルジュ・ド ふれざんす桜井

・一泊例会について
 日程：4月12日（金）～13日（土）
 行先：宮崎県宮崎市、他
 現在のところ、22名の方にご登録頂いている。お返事がまだの方は3月8日（金）までにお願ひしたい。また、ご参加頂く方には登録料 38,000 円を頂戴している。次回は移動例会のため、次々回の3月1日の例会にて集金させて頂く。本日お持ちの方は後ほど私の方までお声がけ頂きたい。

卓話

担当：井上輝好会員
 講師：巧匠堂 代表・文化財保存学 博士
 吉水快聞氏

「鎌倉時代の慶派仏師から学ぶ 奈良の文化的資産について」

- ◆地方創生
 安倍政権により、地方創生が叫ばれているが、奈良県の強みとは何だろうか。
- ◆人類は創造する生き物である
 人類は 2 万年前のラスコーの壁画にもみられるように絵を描き、1 万年前の縄文土器に見られるように立体物を創造してきた。これは明らかに近類のチンパンジーやサルとは一線を画す行動である。人類が人類たらしめる 1 つの要因をここに見出すことができるのではないか。



◆人体の表現

人類が造形物を創造するにあたり、太古の昔から現在に至るまで普遍に続くテーマの1つが人体表現である。私たち自身の一番身近にあるモチーフであり、人が一番興味を示す対象である。エジプトやメソポタミヤ、エーゲ海など各文明から始まったその流れは宗教と共に多種多様な文化を取り入れながらシルクロードを通りわが国の仏像へ受け継がれている。

◆奈良仏師の革命

日本に仏教と共に伝来した人体表現の一種である仏像の造形は、日本人の感性と共にやがて、11世紀半ばの定朝の造った仏像に代表される和様の仏像へと昇華させる。しかし、その後、定朝の創り出した像があまりにも素晴らしく人々に受け入れられたため、それを模倣した像が多く造られ、やがて様式化していく。人は同じようなものを見続けると新鮮味が無くなり飽きてしまう性質がある。模倣である限りはそれ以上のものはなかなか生まれにくい。その様式化した仏像業界に革命をもたらしたのが奈良で天平時代や平安初期の仏像などの修復を手掛けながらくすぶっていた奈良仏師たちである。彼らは修復を通し古典を学ぶ機会に恵まれており、定朝以前の造形表現に自分たちの新しい感覚や技法を加えることにより新しい仏像の造形表現にたどり着き、南都復興を成し遂げたのである。

◆運慶や快慶は天才なのか

運慶や快慶は日本で最も有名な仏師ではないだろうか。彼らは突如現れた天才のような印象を受けるが果たしてそうなのだろうか。彼らも人の子であり、師匠の下で、考え悩みながら自らの道を切り開いてきたのではないかと。それに大いに影響を及ぼしたのが、定朝様式ではなくより古い時代の天平や平安初期の先人の残した仏像群である。運慶は興福寺や京都の教王護国寺の仏像群などを、快慶は東大寺に残されている天平時代の仏像群や、当時、重源上人が宋から持ち帰った仏画などを参考に独自の造形表現を確立した。

◆奈良の可能性について

前述した通り人類は創造する生き物であり、過去の表現を学び新たな表現をつくりだしてきたのである。そして、その活動の結果により生み出されてきたものが後に文化財と呼ばれるものになった。奈良県は言うまでもなく、かつて都があったため、文化財の宝庫であり、日本の各時代の文化財がほぼすべて揃っている。特に彫刻文化財に目を向けたとき国宝指定の半分以上

が奈良県に存在するのである。

	国宝 (彫刻)	重要文化財 (彫刻) (国宝含む)	全国宝合計	全量文合計 (国宝含む)
奈良	74	496	203	1327
京都	39	419	234	2187
東京	3	214	281	2804
全国	136	2711	1116	13232

※平成31年1月1日現在 数値は文化庁のサイトより引用

鎌倉時代の運慶や快慶が古典を参考に新しい風を仏像業界に吹かせた通り、先人の英知が詰まったモノが身近にあるというのは作家にとって有益なことである。実際、私も大学院のころの研究対象は東大寺に所蔵されている快慶作の仏像であり、何度もお寺に足を運んだ。

地方創生において奈良県の強みは何だろうか、文化財を利用して観光などに繋げたり、文化財を利用した2次創作であろうか。しかしそれらには限界がある。奈良県の強みは文化財を守ることでそれ自体を利用する事ではなく、それらを表現や技法を反芻し、自らのものにして新たなモノを生み出す人材育成の可能性ではないかと私は考えている。これは仏像に限った話ではなく、新たなモノを創造することは2次創作にはない新たな可能性を大いに秘めている。

しかしながら、現在、奈良県はそれらを可能にする作家が京都や東京に比べ圧倒的に少ないと感じている。インターネットの普及により、都市部に縛られなくなった現在において、作家は会社員に比べより一層住む場所を自由に選べる時代となった。そう考えたとき奈良県は作家にとって非常に魅力的な土地ではないか。奈良県の文化的資産は文化の根源である人材を育成するのに非常に適した場所であり、それらの人材が新たな文化を発信していけるようになる可能性ではないかと私は考える。

第294回甘檜会ゴルフコンペ (2019年2月20日(水)) 於：奈良国際ゴルフ倶楽部

